

論文の内容の要旨

論文提出者氏名	金井圭太
論文審査担当者	主査 田中榮司 副査 宮川眞一・駒津光久
論文題目	
Autoimmune pancreatitis can transform into chronic features similar to advanced chronic pancreatitis with functional insufficiency following severe calcification (自己免疫性膵炎は、石灰化を呈した後に機能障害を伴う慢性膵炎へ移行しうる)	
(論文の内容の要旨)	
<p>〔背景と目的〕 自己免疫性膵炎 (AIP) はステロイド治療が奏功し臨床所見、画像所見、病理組織学的所見が改善することから急性期の病態と考えられてきた。しかし長期経過において、通常の慢性膵炎 (CP) と同様に膵石灰化を呈する症例が存在することが明らかとなってきた。我々は AIP の長期経過で一部の症例が膵石を合併し、再燃、診断時の膵頭部腫大、膵頭部の Wirsung 管と Santorini 管両方の狭細所見が膵石形成と有意に関連していることを明らかにした。従って、AIP は長期経過で CP の画像所見を呈する病態に移行しうると考えられる。しかし、長期経過で AIP が CP で認められるように膵機能低下を来すか否かについては十分な検討がされていない。本研究の目的は、AIP が CP と同様に長期経過で膵機能低下を来すか否かを、膵外分泌および内分泌機能の両面から明らかにすることである。</p> <p>〔方法〕 1992 年～2014 年 8 月の間に 3 年以上経過観察が可能であった 92 例の AIP を対象とした。慢性膵炎臨床診断基準 2009 に準拠して AIP 92 例を非石灰化群 75 例と膵石灰化群 17 例の 2 群に分け、CP 群 47 例と健常コントロール群 30 例を対照とし、膵外分泌機能について便中エラスターゼ (fecal elastase concentration: FEC)、膵内分泌機能について fasting immune-reactive insulin (IRI)、fasting C-peptide reactivity (CPR)、homeostatic model assessment (HOMA)-R、HOMA-β を評価し、比較検討した。</p> <p>〔結果〕 AIP 膵石灰化群は 17 例 (18%) に認めた。AIP 膵石灰化群は AIP 非石灰化群に比べ有意に観察期間が長く、PSL が有意に長期にわたって投与されていた。AIP 両群は CP 群に比べ有意に高齢であった。飲酒喫煙歴は AIP 両群に比べ CP 群で有意に多く認めた。FEC 値は CP 群が AIP 非石灰化群より有意に低値であったが、AIP 膵石灰化群とは有意差を認めなかった。FEC < 200 μg の高度膵外分泌機能低下を呈した症例の割合は、CP 群 (74%) が AIP 非石灰化群 (39%) に比べ有意に多く認めたが、AIP 膵石灰化群 (56%) とは有意差を認めなかった。IRI と CPR は AIP 両群間に有意差は認めなかったが、いずれも CP 群に比べ有意に保たれていた。IRI と CPR が正常値未満の症例の割合は、AIP 非石灰化群は CP 群より有意に少なかったが、AIP 膵石灰化群は CP 群との間に有意差を認めなかった。HOMA-R は AIP 両群で CP 群に比べ有意に高値であり、ステロイド治療に因るインスリン抵抗性の影響が示唆された。HOMA-β は AIP 非石灰化群で CP 群より有意に高値であったが、AIP 膵石灰化群は CP 群との間に有意差を認めなかった。</p> <p>〔結論〕 AIP 膵石灰化群は非石灰化群に比較し膵外分泌および内分泌機能障害が進行しており、AIP においても CP と同様に、長期経過で膵機能の低下を来すと考えられた。AIP 膵石灰化群の膵機能障害は CP に比較して軽度であり、AIP では障害の進行が緩徐である可能性が示唆された。</p>	